

トランプ氏：「神を私たちの生活に戻そう」

– 今こそ立ち上がり、声を上げ、私たちの未来のために戦う時です！

2025年2月6日 gazetteller.com

ドナルド・トランプは、腐敗した体制が何度も彼を黙らせようとしても、真実を語ることをためらうような人物ではなかった。しかし、昨年2度の暗殺未遂事件を生き延びた後、何かが変わった。全国祈祷朝食会の前に立ったトランプは、神は実在するだけでなく、アメリカを見守っていると明言した。そして今、トランプは国民に信仰に戻り、人生のあらゆる側面から神を排除しようとする魂のないグローバリストの計画を拒否するよう呼びかけている。

国會議事堂でトランプ氏は率直にこう語った。「宗教を取り戻そう。神を私たちの生活に戻そう。」これは単なる政治演説ではなく、信仰、道徳、そしてこの国の基盤を消し去ろうとする勢力に対する宣戦布告だった。トランプ氏の言葉は、死そのものと対峙し、かつてないほど強くなっている男によって語られたものだった。

昨年、ペンシルベニア州バトラーで、トランプは最期の瞬間を迎えた。銃弾はわずか数インチの差で彼をかすめた。メディアはそれを軽視し、体制側は無視した。しかしトランプは真実を知っていた。これは彼の命に対する直接の攻撃だったのだ。それでも、彼はここに立っている。より大胆に、より確信にあふれ、より搖るぎない信念を持っている。「何かが起こった」とトランプは認めた。「私を救ってくれたのは神だった」

ディープステートは失敗した。彼らはトランプ氏を失脚させたかった。彼を黙らせたかった。しかし、彼らはそれよりもずっと強力なものを目覚めさせた。使命を帯び、神の導きを受け、アメリカの中心に信仰を取り戻す準備ができている男だ。

トランプ氏と信仰の関係は深まったが、誤解しないでほしいのは、これは単なる個人的な信仰以上の問題だということ。これは国家の魂を賭けた戦いなのだ。トランプ氏を軽蔑する腐敗したエリート層は、何十年もかけて信教の自由を解体し、キリスト教徒の声を封じ、信仰を国家主導の統制に置き換えてきた人々と同じだ。しかし、彼らのあらゆる努力にもかかわらず、トランプ氏は国會議事堂に立って、信教の自由は「アメリカ生活の基盤」であることを彼らに思い出させた。彼はそれを「絶対的な献身」で守ると約束した。

彼らがトランプ氏を恐れているのは、まさにこのためだ。トランプ氏の復活は単に政治的なものではなく、精神的なものだ。リーダーが屈服することを拒否し、裏切ることを拒否し、グローバリストの操り人形のルールに従うことを拒否すると、その勢いは止められなくなる。トランプ氏への攻撃は止まらない。中傷キャンペーンは激化するだろう。しかしトランプ氏が生き残ったことは、彼がこの国をその原点に導く運命にあることの証拠だ。

政治的正しさのために信仰を裏切った権力者、メディア、いわゆる「宗教指導者」たちは震え上がっている。トランプ氏はすでに、アメリカを破壊している勢力への服従を説くマリアン・ブッディ牧師のような人物と衝突している。しかしトランプ氏は弱者をなだめるためにここにいるのではない。彼はこの偉大な国の信仰、自由、そして神聖な運命を回復するためにここにいるのだ。

トランプ氏は敵の戦略を見抜き、暗殺の試みを生き延び、より強くなった。アメリカには選択肢がある。神を消そうとする勢力に屈するか、トランプ氏を支持して信仰を再び前面に押し出すか。答えは明白だ。この動きは止められない。そして戦う時は今だ。